

第267回 益田掃除に学ぶ会 お掃除通信

開催場所 益田小学校 校長 増野 峰国
参加者数 13名 教頭 澤江 健

1、代表世話人挨拶 山崎純
先月は横浜に行ってきたので参加できず失礼しました
こちらの益田小学校は良く提供して頂きます。天候も
良くなってきて、回数のカウントダウンが始まりましたが
あと3年弱頑張って300回へ向かって進んでいきたいと
思います。明日子供さんたちがトイレがきれいになったと
喜んで頂けるように掃除をしましょう
2、体験感想発表
・中島 明洋さん(翔陽高校1年生)
今回は小便器を担当しました。クエン酸で少し柔らかく
なっていましたのでやり易かったのですが、今までに
尿石の柔らかくなったものを見た事がなく驚きました
・岡本 昇太さん(浜田市・キヌヤ)
今日は小便器を2個磨きましたが、一個は白、もう一個は
青色で、白は汚れが目立って掃除しやすいのですが
青は流した後きれいにならなかったように感じました
・増野 峰国さん(吉田小学校校長)
初めて参加させて頂き、学びが沢山ありました。まず
道具を揃えて、きちんとした使い方をしないといけないと
感じました。また普段から見ているようで見えていなかった
ことに気付きました。普段はここまでやらないので、見えない
ところを随分見落としていたし、校長として目配りや気配り
を、全ての事でしなければならぬことを反省しました
・中部 尚樹さん(浜田市・キヌヤ)
今日は校長先生と一緒に掃除をさせて頂きましたが、
校長先生の一生懸命便器を磨いているお姿に感動して
自分自身について改めて反省しました

2、体験感想発表
・山崎 純さん(益田市・キヌヤ)
今日は尿漉しを担当しましたが、案外きれいな物と汚れがひどい物と
両極端で結構大変でした。プラスチックですから変形して折れそうな
物もありそれ以上は磨けませんでした。古い学校ですから仕方あり
ませんが、少しでも子供さんに喜んで頂けるといいと思います。
・森 直雄さん(キューサイファーム島根)
今日は女子トイレを担当しました。人数が少ないので3か所もしました
いつもなら一点の曇りの無いように隅々までやるのですが、今日は
心残りでした。特に配管の緑の錆が磨けなくて残念に思います
・稲元 正敏さん(浜田市・しまや)
今日は少人数で多くのトイレを担当したので疲れました。広くなる
のもいいのですが、ひとつひとつが中途半端な結果になり、どちらがいいか
やり方を考えないといけないと思いました
・青木 邦江さん(益田市)
2~3か月お休みして、久しぶりに参加しました。平成の終わり頃から
エネルギーが減ったような気がして、これは動かないといかんと感じ
参加することにしました。まあ参加することに意義があると思います。
今後は異業種の方とお付き合いをしたいと思っています
・中西 秀之さん(鹿野掃除業学ぶ会)
久しぶりに益田に参加しました。益田はまじめで皆さんが黙々と掃除を
されていて驚きます。普段から感じることですが、今日は校長先生が
参加されていますが、学校関係の方がゼロということもあり、一人でも
二人でも参加されると色々なことに気付く結果になり学校も良くなると
思います。中島君もこのまま是非続けて欲しいですね。
・佐々木 昇さん(浜田市)
青木さんは気配りをされ一緒に安心し、中西さんも気配りができて凄い

4、鍵山秀三郎相談役 一日一話より抜粋
掃除のこつ
掃除のコツは、範囲を限定して徹底することです。
たとえば、Pタイルを一日一枚だけとか、あるいは廊下を1メートルずつというように
一部分ずつ区切ってやることです。そうしますと、汚い所ときれいところがはっきりするので
後がやり易くなります。一遍にやろうとしてもできるものではありません。やってもすぐ元に戻ってしまうだけです
そのうち一気にまとめて
きれいに洗った車ででかけても、すぐ汚れることもあります。
それでも洗って出かけるようにしております。人間というものは「今日はもうじき雨が降りそうだ」
「明日は降りそうだ」「近いうちに降りそうだ」と理由を付けて「今日はまあいいか」となりがちです。
「そのうちに一気にまとめてやろう」などと言って結局やらないものです。
5、森信三先生の教え 一語千鈞より
只管あいさつ
・睡眠は必要に応じて伸縮自在たるべし
「何時間寝なければならぬ」というような固定概念をすて、必要に応じて5時間、3時間はもとより
時には徹夜も辞せぬというほどの覚悟が必要
・人間はおっくがる心を刻々に切り捨てねばならぬ。そして歳をとる程それが凄まじくならねばなるまい
・足もとの紙くずひとつ拾えぬ程度の人間に何ができよう
・紙くずというものは、これを見つけた人が拾ってやるまで、何時までもそこに待っているものなのです
もっともこれは平生紙くずを拾うことに努めている人が知っている事なんです。このようにこの世の中には
実行しない人には到底わからない世界が限りなくあるものです。
6・平澤 興先生語録より
生きよう今日も喜んで
一期一会とは静かであっても、生命のかかった、そのうしろには燃えるような火があつてこそ一期一会である
仕事でもよい、お茶を喫するのよい、後ろに燃えている火がなければならぬ。明日のことはわからない
只今に生命をかけて打込む情熱が大事である。
自らを礼拝し、自らの心に頭を下げて、言葉を超えた無限のものにひたすら頭を下げることである。